第39回 市政e-モニターアンケート
「市民との“共創”を通じた市政運営について」 最終結果

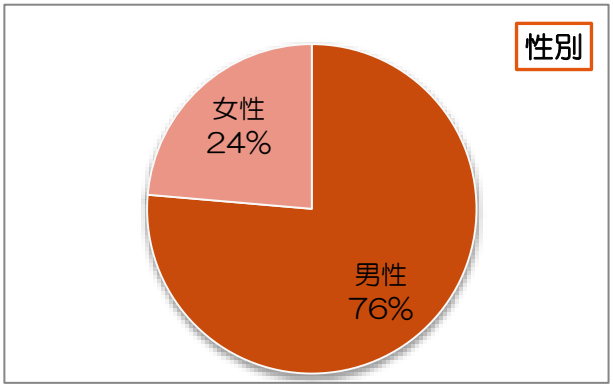
【テーマ】市民との“共創※”を通じた市政運営について

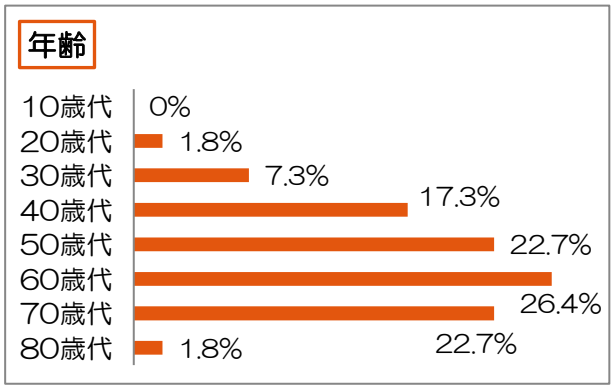
【 目的 】未曾有の少子高齢化、技術革新、地方創生の時代に市民ニーズは多様化し、地方行政を巡る環境は著しく変化しています。市は、市民や民間企業、大学等との“共創”を通じて、新たな社会的課題を解決することを必要としています。このために、市民の市政や社会課題に対する関心度や意識を知り、今後、どうすれば市と市民が協力して、効果的に市政運営をしていけるのか、その方途を探っていきたいと考えています。ご協力をお願いします。

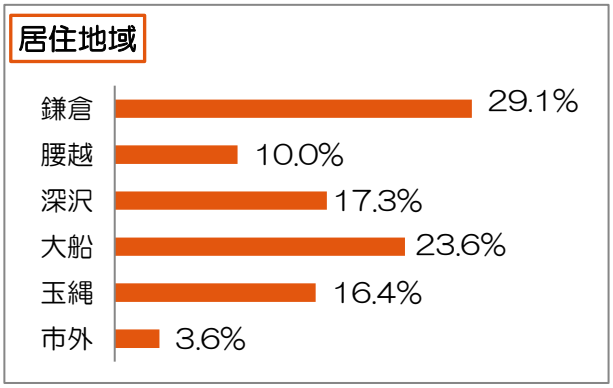
※“共創”とは、社会的課題の解決を目指し、市や市民や民間企業、大学等の様々な主体が対話を通じて連携を強め、相互の知恵とノウハウを結集して、新たな価値を創出すること。

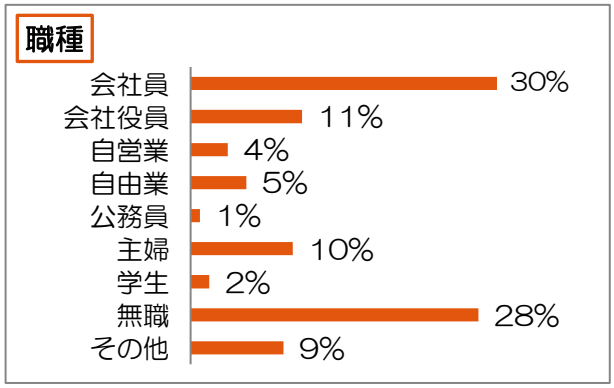
◆アンケート送信日　：　平成29年12月1日（金曜日）
◆実施期間　：　平成29年12月1日（金曜日）～12月14日（木曜日）
◆送信者数　：　442 名（着信者数 417名）
◆回答者数　：　110 名
◆回答率(対着信者数)：　26.4%（前回より -1ポイント）

【今回の回答者の基本属性】



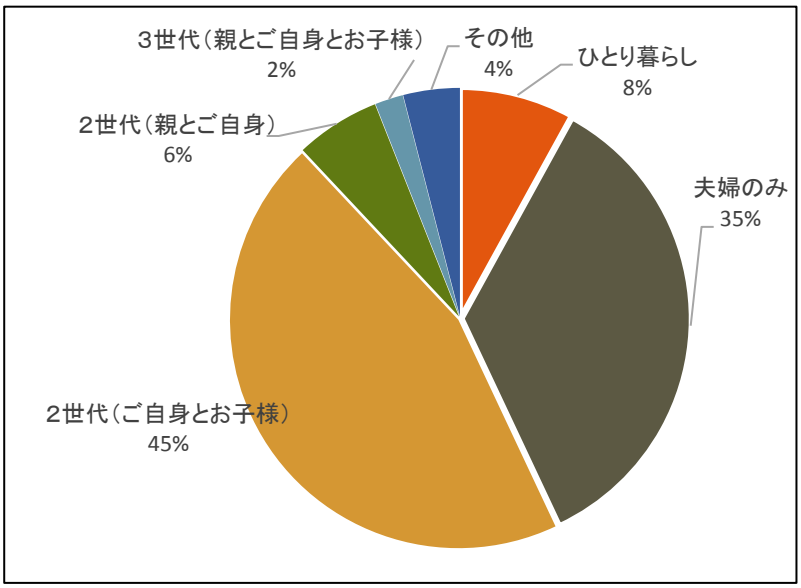






【質問1】（必須）世帯構成を教えてください。

ひとり暮らし	9 名
夫婦のみ	38 名
２世代（ご自身とお子様）	50 名
２世代（親とご自身）	7 名
３世代（親とご自身とお子様）	2 名
その他	4 名
合計	110 名



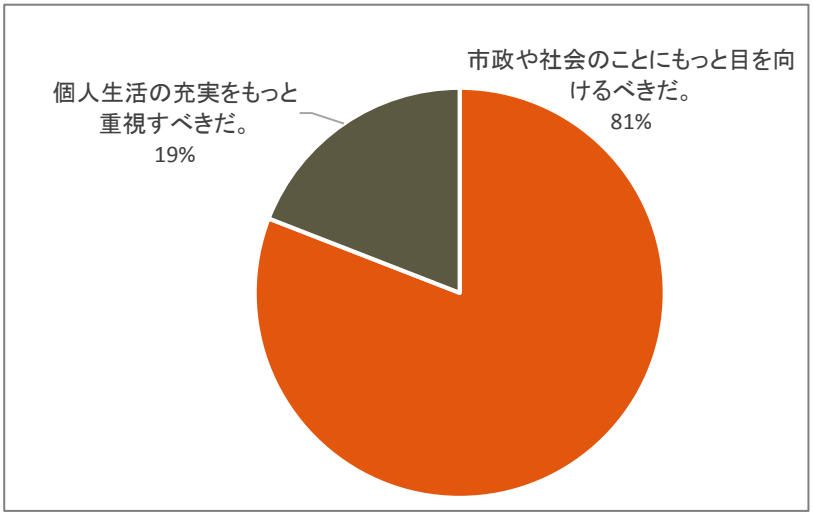
「その他」

- 祖母と親と自分と子ども
- 夫婦と片親の2世代
- 夫婦と孫１人の3人
- 夫婦と母親

【政策創造課より】
国勢調査によると鎌倉市の世帯構成は、一人暮らし世帯は全体の 29%、その他家族と暮らす世帯は 69%となっているのに対し、今回のアンケートの回答者は、一人暮らし世帯の割合が８%と低く、家族と暮らしている割合が 86%以上と高い割合となっています。

【質問2】（必須）市民として、「市政や社会のことにもっと目を向けるべきだ」という意見と、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」という意見がありますが、あなたのお考えは、このうちどちらの意見に近いですか。

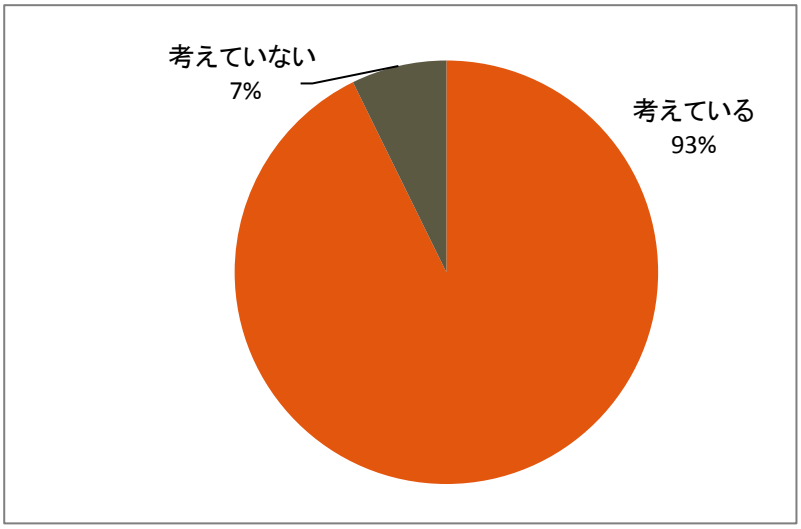
市政や社会のことにもっと目を向けるべきだ。	89 名
個人生活の充実をもっと重視すべきだ。	21 名
合計	110 名



【政策創造課より】
今回の調査は、毎年内閣府により実施されている「社会意識に関する世論調査」と同じ質問をいくつか取り入れています。社会志向と個人志向をたずねる質問２について、内閣府の調査では、社会志向と個人志向の比率は半々に分かれ、社会志向がやや高い傾向にあるのに対し、本調査の回答では圧倒的に社会志向が高くなっています。

【質問3】（必須）あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと考えていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。

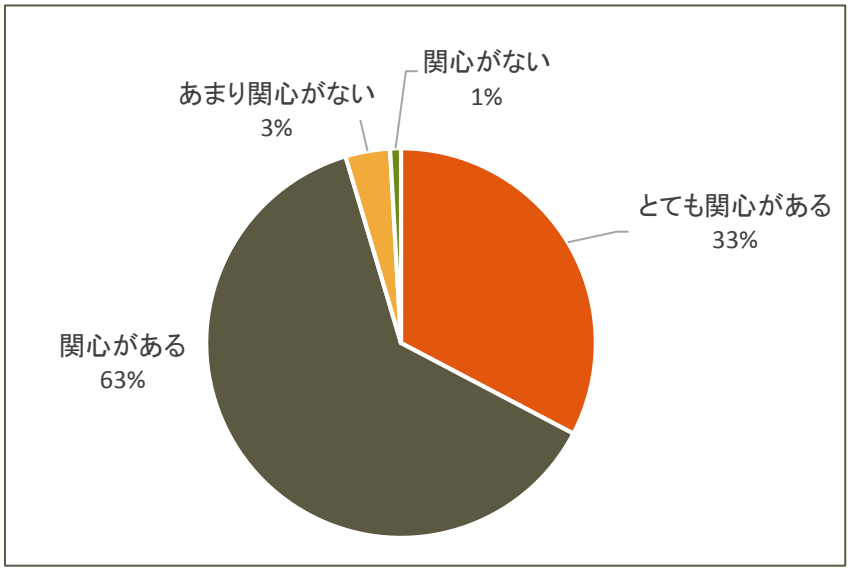
考えている	102 名
考えていない	8 名
合計	110 名



【政策創造課より】
社会への貢献意識について、内閣府の調査では、「社会に役立ちたいと思っている」とする肯定的な意見は、平成 21 年の６９％をピークに逓減し、現在は 65%前後となっています。これに対し、本調査では、９割以上が「社会のために役立ちたいと考えている」と肯定的に答えています。

【質問4】（必須）市政にはどの程度関心がありますか？

とても関心がある	36 名
関心がある	69 名
あまり関心がない	4 名
関心がない	1 名
合計	110 名

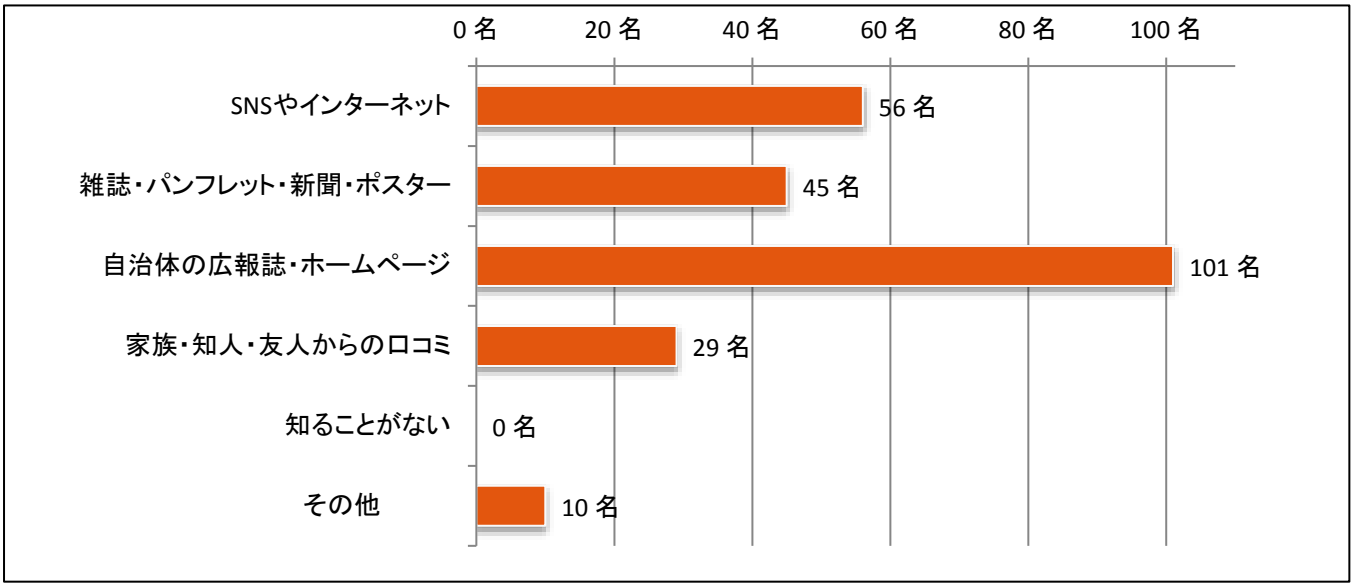


【政策創造課より】
市政への関心も非常に高い傾向があることが分かりました。

【質問5】（必須）日ごろ、市政の情報を何で知りますか?（複数回答可）

SNSやインターネット	56 名
雑誌・パンフレット・新聞・ポスター	45 名
自治体の広報誌・ホームページ	101 名
家族・知人・友人からの口コミ	29 名
知ることがない	0 名
その他	10 名

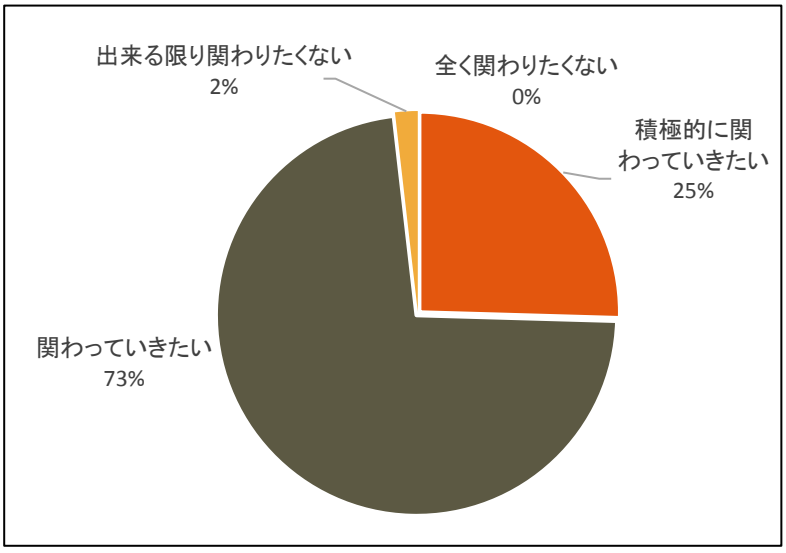
【その他】の内訳
- 市議会議員。
- 市議会議員の新聞。
- 時々駅前で配られるチラシ（てのりかまくら）。
- 市の行う講習会などへの参加。
- 支所の展示物。
- 職場。
- 町内会と市の共同研究。
- 鎌倉市職員とのお付き合い。
- 学校からのお便り。
- j-com TV。



【政策創造課より】
自治体の広報誌やホームページが、市政情報を入手する主要な媒体であることが分かりました。また、雑誌・パンフレット・新聞・ポスターなどの紙の媒体よりも、SNSやインターネットなどの電子媒体が情報手段として有効であることが分かりました。

【質問 6】（必須）今後、市政に関わっていきたいですか？

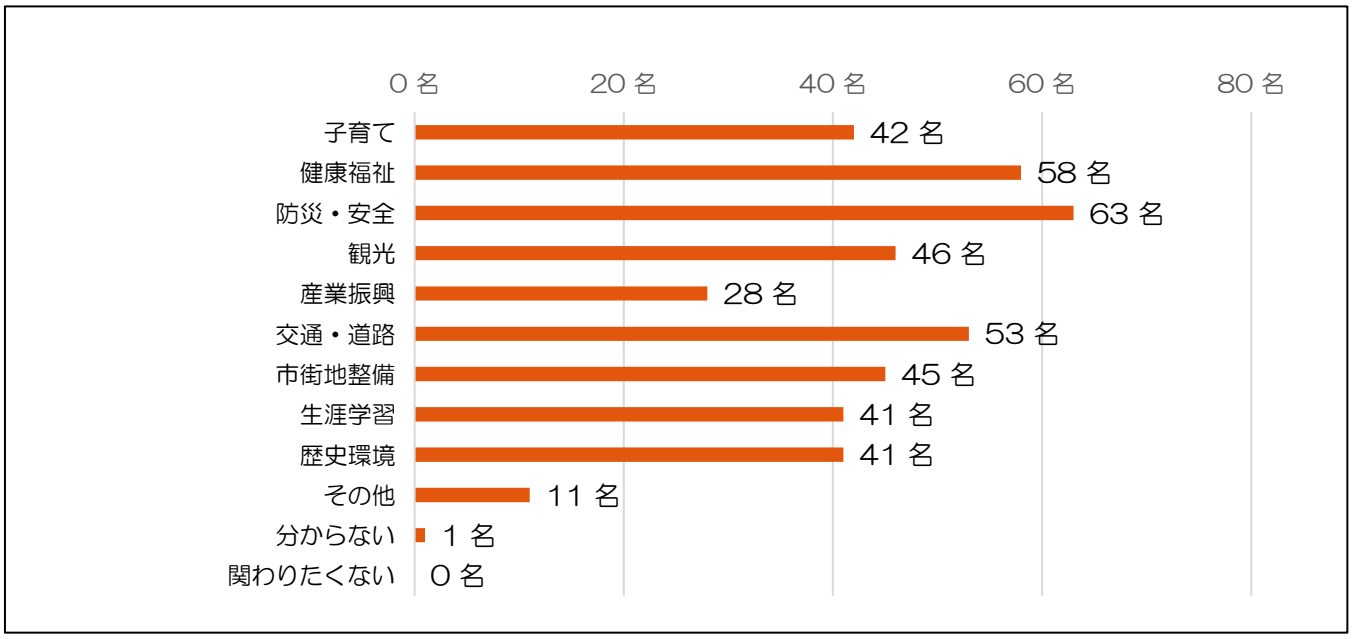
積極的に関わっていきたい	28 名
関わっていきたい	80 名
出来る限り関わりたくない	2 名
全く関わりたくない	0 名
合計	110 名



【政策創造課より】
市政に関わっていきたいという前向きな意見が多いことが分かりました。

【質問 7】（必須）市政に関わるとしたら、興味のある分野はどれですか？（複数回答可）

子育て	42 名
健康福祉	58 名
防災・安全	63 名
観光	46 名
産業振興	28 名
交通・道路	53 名
市街地整備	45 名
生涯学習	41 名
歴史環境	41 名
その他	11 名
分からない	1 名
関わりたくない	0 名



※「その他」のご意見

- 分野を細分化するのでなく複合的なシステムの構築を目指したい。例えば、小学校内に残された歴史建造物を公的に開き、子どもと地域の高齢者が協働し、歴史や文化伝承の拠点とすることで、インバウンド＆一般観光を包括すると共に、高齢者の生き甲斐創出や子ども達の地域プライド育成に寄与する。教育委員会と創造都市政策やまちづくり系部局がコラボすれば可能のはず。
- 市政の監査。
- 1.ごみ処理場の建設　2.市役所の移転・建替・補強　3.観光客の導線の安全確保　4.議員の考え方　5.次世代に効率の良い鎌倉を引き継ぐ問題
- 自然環境保全。新規開発停止。
- 環境問題。
- ごみ処理問題。
- 住民税を払っている普通の市民を尊重する行政。
- 教育。
- 文化芸術部門。
- 文化芸術による福祉。
- 要支援・介護認定などを受けていない高齢者が生涯自宅で過ごせる環境作り。

【政策創造課より】
防災・安全、健康福祉への関心が高いですが、どの分野にも一定の関心があることが分かりました。

【質問 8】（必須）ご自身を振り返って、市政に活かせそうなスキルや経験があれば教えてください。
※同様のご意見は集約しています。

【専門知識・資格】

- プロの演奏家(バイオリン)として、高齢者施設や病院で慰問演奏活動。
- 韓国語会話、日本語教育、国際交流。
- 法律知識。
- 建築士の資格。
- 建築士としてまちづくり、防災、空き家対策など。
- ファイナンシャルプランナー。
- 企業経営、経営コンサルタント。
- フォトマスター検定 1 級。
- 通訳案内士（英語）。
- リハビリ療法士として地域リハ活動支援事業に参加(講師)している(鎌倉市から依頼を受けたことはなく横浜市で)。
- 地域活性化のコンサルとして全国 100 カ所以上で産業支援に携わってきた。
- 地方創生プロジェクトを複数の自治体でコンサルティングしている。
- 教員免許・専門社会調査士の資格を保有していること。教員免許は教師の立場から、専門社会調査士は調査の専門家からの視点から市政に生かせる。
- 観光ガイド。
- 社会福祉学科卒。
- 社会心理研究コーディネーター。
- 教職免許、東京都防災士、上級救命士、ボーイスカウト指導者として 30 年、栃木県矢板市観光大使。
- ＩＳＯなどの国際規格についての経験。
- 講師。
- 博物館学芸員資格。
- 大学で専攻していた歴史学。
- 茶道師範なので、文化都市鎌倉の為役立てれば嬉しいです。

【専門分野への貢献】

- 食品安全に関わること、食育に関わることです。
- 障害者支援。
- 高齢者支援。
- 現在ＮＰＯ法人でまちづくりに関して活動しておりますので、鎌倉市全体に役立つことを発信していきたい。
- 通信分野。
- エネルギー関係。省エネや再生エネルギーに関すること。
- 高齢者サポート、公園管理（以上２点実行中）。
- 困っている外国人（ドイツ語圏の人）の相手役。
- 高齢者サポートセンターの講習を受けサポーターとして登録致しました。自身の出来る範囲で活動をしていきたいです。
- 高齢者サポート。待機児童対策。
- 建築、まちづくり、子育て、地域コミュニティ。
- 都市・街並み計画、社会調査、合意形成。
- コンピュータ／プログラミングなどの技術。
- IT エンジニア歴 30 年（メインフレームから PC まで）。
- 海外プロジェクトマネージャー経験。
- 企業コンプライアンス監査業務。
- ビジネス英語。
- IT 関連。
- IT、自治体システムの再構築。
- IT 教育や学生の企業教育など。
- システム設計、ソフトウェア設計や開発など。
- 幼少から高齢までの市民に、知的および精神障害を持つ方への理解を深める。
- 情報発信。
- 金融教育。
- 社会教育。
- 子育て。
- 産業復興。
- 財務再建、環境保全、事務改善。
- 建物管理業務。
- 環境問題、循環型社会促進。
- まちづくり。
- 交通渋滞と歩行者の安全。
- 観光と産業振興。
- 健康寿命。
- マネジメント力。

- まちづくり（←応募中）。緑化政策。景観政策。子どもの成育環境。

【社会経験と知識】

- 各業界での経験など沢山の経験。
- 外資系民間企業での経営経験
- 行政の活動にどのような制約があり、お金をかけるにはどれくらいの時間と手続きがかかるかといった公務員としての経験。
- 公共交通の維持活性化に関する活動。
- 市内をよく歩き、実態を見聞きした上で、安全や効率の観点からバランスをもって考えること。
- 出版社での雑誌・書籍編集スキルと、子育て、PTA 副会長など役員、親（93 歳）と同居中、米国生活（駐在員妻）5 年半などから得た視野。
- IT 技術者として長く生きた経験のみ。
- IT システム開発と活用、ＩＴを活用した事業開発と運営、子育て支援（親と子の両方に対しての）
- IT システム構築や間伐活動に支援可能だと思っています。
- 経営的なセンス。歴史への造詣。観光開発への造詣。
- 東京都で廃棄物行政にかかわった経験。
- 他市の市役所での就業経験。
- 民間会社で資産（不動産，社宅，寮，保養所）管理業務に従事しており、特にお役に立つ様なスキルは有りませんが、普通のワードやエクセルを使うこと位ならお役に立てるかもしれません。
- 子育て、障害者福祉施設での就労経験。
- 長く学校教育に関わってきました。学校教育に関してサポートできるかとがあればお手伝いしたい。
- 海外駐在経験から英語のスキルと、企業所属経験による組織運営スキル。
- 英会話、海外生活。
- 介護経験、鎌倉検定スキル。
- あまりなさそうですが、ショッピングセンターシステムに携わった事が、市街地整備に多少役立つかもしれません。
- 市内にて長年、勤務しており、現在も勤務しており、多くの方々と交流し、意見を出し合っている。
- 長く旅行業の経験はありましたが、生かせるかは不明。
- 循環型社会の深い理解。
- パソコン操作に関する作業。
- 家庭菜園。
- 鎌倉市内ホテルでの勤務経験。
- 25 年間生まれ育った街であること。
- 1980 年米国大学院卒業。英語での業務経験。

【地域活動など】

- 染物をやっております。スポーツも神奈川県の指導者でした。
- 子育てを通しての PTA 活動。
- 町内会活動と民生委員経験を通じてコミュニティーのあり方を考えてきたこと。
- 地域の防災活動に参加し、災害時に活動出来ればと考えている。
- 近所の空き地を借り、子どもの農業体験や遊び場として活用している。
- 「市政モニター」に応募して、市政の実態を学び、観光政策についての提言を行った。
- 退職後、市政モニターになったこと、広町緑地に保全・維持管理にかかわってきたこと、などを通してです。
- 自治会活動、各種市政モニター、文化・歴史などの NPO 活動。
- 鎌倉市の道路事情から交通問題は深刻です。渋滞ばかりでなく危険を伴うこともあり、早期に解決すべきであるため、問題個所について自治会を通じ市への働きかけを行っています。
- 町内会活動、ボランティアなど。
- 以前高齢者サポートに関わったことがある。現在は子育て支援に関わっている。
- 市民後見人として地域包括センターでのボランティア活動や流鏑馬など鎌倉の伝統文化を世界遺産として継承していきたい。
- 学童の下校時における防犯見守り。交通・道路の整備に関する提案。
- 市長への手紙。漁協の話し合い参加。
- 屋外違反広告物除却協力員、自転車道パトロール、落書きパトロール、若宮大路の除草・ごみ拾い、常盤山の健康散策路整備及び山道の地図作成、議会への陳情、市民への ICT 普及活動、小学校の総合学習の講師。
- 防災の研修を受けたことがあります。
- 海外からの友人を案内しました。
- これまでも市主催の会議への参加や意見提出などを行ってきた。現在も協働事業的な活動を行っているので、その経験を活かし、まちづくりを実践していきたい。
- 自治会長として住民の意見を市政に反映できる。
- 老人クラブの活動を通じて得られた人脈、情報、経験。
- 人生経験が長い事は勿論、営業を通してさまざまな事案に対応してきている。又日本の伝統工芸に携わってきているので、生かせる事があるのではないかと思っています。

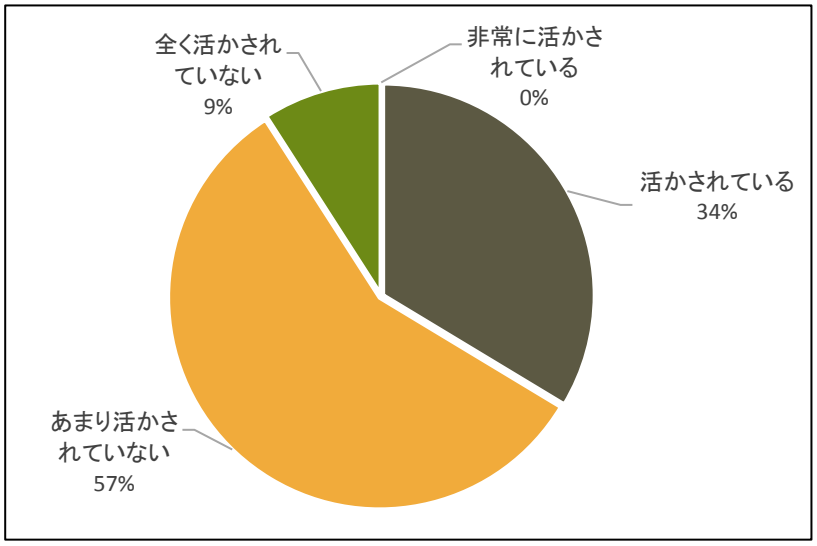
【その他】
- 生まれも育ちも鎌倉です！そんな鎌倉に恩返しをしたい。
- 残念ながら市政に生かせそうなスキルは年齢からしてもありませんが、あえて挙げれば障がい者生活相談員の立場から「障がい者の就職支援」、ライフデザインアドバイザーの視点から「リタイア後の人生設計」についてでしょうか…。
- 仕事を通してファシリテートやアサーションの大切さと難しさを学びました。グループワークで初めての方とも会話が出来る方だと思っています。関心やモチベーションはあっても何で貢献できるのかわからず模索中です。

【特になし】
- 特にない。
- わからない。
- 特にありません。
- 何もないままに高齢者になってしまいました。
- 提供するものなし。
- 残念ながら特別なスキルはありません。

【不明】
- 隣の家、草ぼうぼうで市役所に電話したが、まだぼうぼうで怖い山崎。
- 質問の意図がわかりません。あるとすれば全てで、ないとしたらそれは行政側の問題と考えます。
- 現在自治会長をしています。市から自治会へまるで下請のごとく指示が来ます。事前に連絡を頂き良く検討してから決めてくれれば協力はできますが、今のやり方では協力しにくい。仕方ないからやっているのが現状です。事前に連絡をしてください、お願いします。

【質問９】（必須）これまで、市民の声は市政に活かされてきていると思いますか？

非常に活かされている	0 名
活かされている	37 名
あまり活かされていない	63 名
全く活かされていない	10 名
合計	110 名

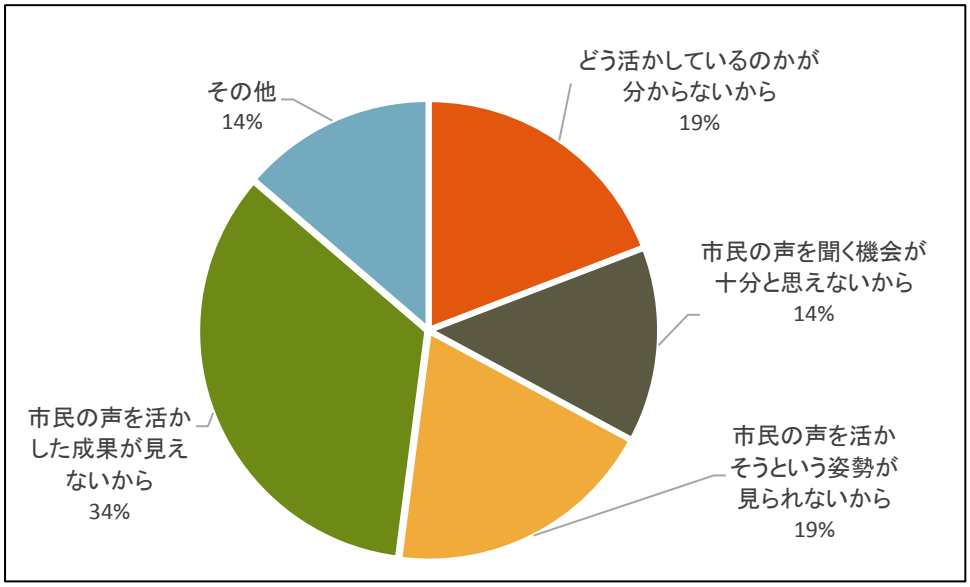


【質問10】【これまで、市民の声は市政に活かされてきていると思いますか？】で「3　あまり活かされていない」「4　全く活かされていない」とお答えした方にお伺いします。そのように思われる理由を教えてください。

どう活かしているのかが分からないから	14 名
市民の声を聞く機会が十分と思えないから	10 名
市民の声を活かそうという姿勢が見られないから	14 名
市民の声を活かした成果が見えないから	25 名
その他	10 名
合計	73 名

【その他の内訳】
- 発信しない市民も問題ではあるが、市民の発信を誘導する政策やイベントが少ない。
- 自営業など比較的時間が自由になる市民の声が反映されていると感じる。「納税者」の多くが会社員であり、観光を制限する意見なども多いはず。

- 市民の声を生かそうという姿勢が見られないから、市民の声を生かした成果が見えないから。
- 自分の希望した人が市長ではないから。
- 圧力を掛ける市民の声ばかりを聞いて、一般的な市民の声をまともに聞かない弱腰姿勢で公平な姿勢がみられないから。
- 今迄、市政 e-モニターのアンケートに参加協力してきましたが、『一応市民にも相談しました』と言う実績作りにしかなっていない様な気がしてきたので、最近は時々協力に変わってしまいました。
- 市政に提案するには議員さんを通さないと通じないと聞いています。町内会で役員をされている方からも聞きました。何故でしょうか？
- 道路事情など明らかに悪いところが多いのですが、いつまでも放置されているところが多く見られます。こういう問題を常に市政に報告しないといけないのか、それとも報告しても予算などの関係で出来ないのかが分からないです。
- 結局、施策にあった声を利用しているのではないか。
- シルバー人材センターや高齢者サポートセンターが行っている事業内容が市民に周知されていると思えない為。



【政策創造課より】
市民の声が市政に活かされていないと考える方が多いということは、反省すべきことと思います。
市民の意見やニーズを市政に活かせる方途を市民のみなさまと一緒に考えていきたいと思います。

【質問11】どのような仕組みや制度があれば、市と市民等が“共創”して、市政を運営していけると思いますか？アイディアがあればお聞かせください。

【意見交流の場・仕組みづくりについて】
- 行政と市民との交流による意見交換会などの実施。
- もっと職員の方々との意見交換ができるとありがたいです。
- 市の職員が市民の集まりに参加するなど、市が市民に歩み寄ること。市民参加型だと特定の人の意見しか反映されないと思う。時間のある高齢者や主婦は参加機会があっても、日中働いている納税者達はなかなか意見する機会がない。インターネットの活用はとても良いと思う。
- 市長や議員が市民との対話の場を設けること。市役所の職員も市民との対話の場を設けること。
- いろいろな機会を通じて市職員との交流の場を作ること。よく言われていることだけれど実践が大事。
- 市の担当者と、問題提起者と直接話し合う場があればよいと思う。
- 市の担当部門と自治会などとのテーマ（例：道路整備・交通対策）を決めての話し合い。
- 市民、特に女性の声が市に届くよう、幼稚園や学校の行事の中に、市役所の職員の皆さまとの交流の場があると、より市政に興味を持つようになるのではないかと考えます。幼稚園や学校の行事の中に、市役所の方々の交流会があると、もっと身近に市政に関心を持って頂けるように思います。
- 市長とのふらっとミーティングに参加したことがありますが、そういった機会がもっと増えたら嬉しいです（今年度は時間が合わず参加できませんでした）。

- 最近 SNS での情報発信がとても充実していて、若年層の市政への関心も高めることができているのではないかと思います。今後も続けていただければと思います（ただ、SNS が身近でない方のためにも掲示板や広報誌、回覧板などでの情報発信も継続してほしいです）。
- 駅やスーパーなどに、匿名で投函できる市民の声ポストの設置、高齢者や障害者などの訪問での聴き取り。
- 気軽に意見を言える場(インターネットと紙の両方)。
- バーチャルで時間、場所を問わず、自由に議論できる場が良いのですが、荒れる傾向にありますので、やはり意思を持った同士のリアルな場で議論できれば良いかと思います。
- 現在は時間的・経済的に余裕のある人にしか、市政に参加できなイベントが多いかと思います。そのため、一部の市民の声しか市長や市議に届いていない状況かと思います。圧倒的に多い、働いている人（パート労働者も含む）、子育て中の人（兼業主婦・主夫）など、時間的・経済的に余裕のない人(皆疲れているので休日は休息したいのです)でも情報共有でき、意見を発信し、共に議論したりアイデアを出せる場が必要かと思います。そのため、24 時間・場所を問わないＳＮＳの活用を大々的に進めるのはいかがでしょうか？
- 市民が共有できる SNS サイトがあれば良いと思います。
- SNS の活用だと思います。今の市長の取り組みは方向としては共感しています。ただ推進の為の原動力が足りない印象。現状では市長個人の取り組みに見えていて、市としての姿勢や方針という形に見えていません。広報活動として、オフィシャルな ID からの情報発信や積極的な Q&A を FB などでもっと推進すべきで、そこから色々なヒントが拾える気がします。その為にはアグレッシブに活動する「中の人」が必要。専用要員の外部からの採用も有効かと。
- 重要事項に関しては、さまざまな年齢、性別の市民が顔を合わせ話し合える場を休日、平日、昼間、夜間などで複数回、さまざまな地域で開催し、意見を収れんする方法でまとめていく。
- 市政の現在の課題や問題点について、テーマごとに市と市民が意見を出し合えるような会議体を作る、この場合意見の言いっぱなし、聞きっぱなしではなくお互いがそれなりの責任感を持って対話できる体制が必要。
- 市民が参加できる「鎌倉市議会」や、「改善アイデア」公募するなどなど。
- 市の職員と市民がプロジェクトチームをつくり、企画を作り、予算を計算し、必要な手続きを議会へ通すまでをやる。
- 会議をいちいち公民館や市役所の会議室で開催するよりも、日々SNS でディスカッションする方が絶対的に得られる情報は多いし、違う世代（市役所までわざわざ来ないより若い世代）の意見も取り込めると思います。想像するに市長との会話みたいなミーティングも参加するのは一言ある年配の常連さんばかりでは？開催の費用対効果を一度考えてもいいかもしれません。
- 市のウェブサイトで、意見を聞く場や問題の提言ができるとよい。そして SNS の活用も。
- 行政の機能（ＰＴＡや町内会も含めて）を可能な限り（専用の）ＳＮＳに移行する。
- メールなどで気軽に意見が出来るような仕組み作り。
- 細かい問題について市政に報告するのは非常に大変です。そのための窓口も、まずは町内会に報告すべきなのか、直接市役所にお願いすべきか、それではどの部署など、報告のための手間がかかります。暮らしの中ではいろいろな種類の問題があるので、その都度窓口を市民側が選ばないといけないとなると、良い提案であっても、直接自分に関係なければわざわざ自分がやらなくても良いということになります。少なくとも市政の窓口を一本化し、その裏側で対応する仕組み・人材などに予算を割り振るのはどうでしょうか？
- 意見Ｂｏｘが身近に欲しい、時間が経つと諦めてしまう事が多い！
- 文書・ネットの市民の声を集約して毎月か 4 半期毎に、文書やネット（広報）で周知すること。検討中や議会承認を要するものもその旨周知すること。
- 市民集会。
- 自治会、市内の学校保護者会、商工会などの代表と意見を出し合い、お互いにできることを探っていく。
- 議会とは切り離し、市民の自由な発言を集める努力を続けること及び、そのリアルな場を常設したらいいですね。人の交流、異なる意見が衝突する場を意図的に設置する。市長や議員との繋がりなどでバイアスがかかってないことが前提ですが、主体的にフリーラジカル的に社会の共通善を考えることが楽しいと思える人を集め、彼らに声にならない声を形式化、見える化し、アクションプランまで落とし込んでもらう、など。
- 市長や議員との対話集会などの機会を増やすこと。
- 市民の声を聴く機会を増やす。また、多くの市民が参加できるように日時についても市民の都合を最優先して設定する自由討論会など。会議室などではなく発言しやすい場所が良い。
- 助成金などを出して自治会や町内会をもっと活用しても良いと思う。
- 私の住んでいる町には自治会があります。市内には沢山の自治会があるので大変かと思いますが、行政の方と話ができる様になったら良いと思います。
- 鎌倉には町内会という素晴らしい組織（制度）があると思います。この組織活動をもっともっと生かして町内会メンバー（市民）の声を吸いあげて市政に生かしてはどうでしょうか。
- 市と自治会・町内会との連携を密にして「共創」に貢献できるような体系を確立しするため、市と自治会・町内会に専担者をおいて目的に沿ったを運営を行う。
- 地域懇談会を、回によっては 30 代対象とか 40 代対象にしてみる。見える課題や解決策が変わると思う。機動力もあると思う。
- もっと、市民参加型の委員会なり、勉強会などを市の政策立案・吸収組織として設置する。
- さまざまなテーマで共創部会を公開で開催する。傍聴もできることが望ましい。
- ひとつのテーマに対して平日昼間だけでなく週末や夜など違う時間帯や曜日で複数回説明会や勉強会を開く。
- 市役所や市議会の活動や役割をまずは地域ごとに説明を行い、市民参加を議論する機会を設ける。説明会は、町単位で行い意見が出やすい様に実施する。
- 何かイベント。餅つき、芋煮、座禅、かるた大会など。参加のハードルが低いイベント。普段から市役所や他のコミュニティと関われる気軽なことから、驚くようなアイデアがでるかも？

- まちなみサロンを作っていつも情報交流が出来るようにする。明確な将来ビジョンを市が示してそれに向かって想いを共有していく。
- 入口は気軽で参加に対してハードルが低いもので参加型の市政を知ってもらう(中学給食の試食会とか)。あるいはターゲットに特化したテーマで既存の広報を再構成(まとめて)して、情報の欲しい側と意見の欲しい側との接点を作るなど。

【行政からの情報発信について】
- 市からの発信の強化。
- やはり、広報の方法をもっと広げるべきではないでしょうか？
- このようなアンケートの声を広報紙に載せる。
- このようなインターネットを利用した意見取集は有効だと思いますが、インターネットになじみのない人たちの意見も聞く必要がある。なぜなら回答者が中年世代と男性に偏りやすいから。郵便によるアンケート、投票によるアンケートなど。
- このような市民アンケート。
- パブリックコメントは内容が複雑で理解しにくいので、わかりやすい内容で説明する。
- 休日に市議会を拝聴できる。
- 市政のテーマ毎の説明会。
- 市政 e-モニター制度を最大限活用する（広聴・広報の費用効果が最も高い)。
- あらゆる市政策について広聴・広報するときはプラス面だけでなく、マイナス面も隠さず、公開するように。
- 市の説明は、往々にして説得力に欠けます。もっと自信を持って粘り強く　対応してもらいたい。
- 市政 e-モニター制度を、さらに、市民各位に周知することが、スタートだと愚考します。

【行政組織に関して】
- 市の幹部職員の人事評価システムの大幅改定が必要。また、市民の属性に応じた組織に市役所を改組すべきだ。例えば高齢者、児童、子育て中の親など。
- 特定の業界団体が大きな影響力を行使するのではなく、より市民や市内事業者の参画を意識した事業スキームの組み立て。
- NPO との協業。地権者との仲立ち。
- 色々な分野がありそれぞれが縦割り状態の様な気がする。横のつながりを密にし公的立場、市民的立場の人々が一つの課題を共有する必要があるのでは。
- 現状では、市政は市議会という形でしか反映できる仕組みはないように思う。情報発信や市民の意見が反映される過程がまったく見えていないので、市役所の方で、意見を出せばこのように生かします、というようなプラットフォームを提示してもらえば、もっと意見を言いやすくなるだろう。
- 市民は市長の方針に注目しているが、明確に表明されていないきらいあり（議会の意向に配慮している？）市長が直接市民へ発信できる環境が必要。
- ごみ焼却、市庁舎移転などの重要事項に的を絞った働きかけがないと思う。
- 利権絡みで仕事をする人はダメです！上司や先輩、上役の顔色を伺いながら仕事する人もダメです！自らの保身を考えて仕事する人もダメです！自分の言動や行動に責任を持てない人もダメです！つまり、仕組みもそうですが、そういう人が集まった方がよいと考えてます。
- 複雑多岐な課題に対応するためには自治体独自では組織的にも高度の専門性を持った人材にも限界がある。大学、企業、NPO 法人などのネットワークを築きマスタープランなどを構築し多くの方に参画を呼びかける。
- 市民による監査制度。
- 市長へのご意見箱があって、意見は具申できるがその意見を積極的に具現化していこうとする組織が整備されていない。
- ＰＤＣＡスタイルでのマネージメントと財政の複式簿記の積極的導入。
- やっていきたいことを募集して、採用されたらそれを実行するチームを作り、きちんと報酬を出すシステムを作ること。
- 市側の担当者や推進関係者の開示と進行スケジュールの公表など。
- 市民税の使用内訳を詳細に公表し、赤字にせず、実態が透明であること。
- 市長や市議会議員選挙についてもインターネットなどで電子投票が可能になること。
- 市政の民間委託の推進。
- 学識経験者や業界代表みたいな「おえらいさん」を除外した推進委員会の設置。
- 無報酬の市民委員を増やす。
- 市民と懇談する無任所の幹部を設ける。
- NPO センターの抜本的な改革（システム＆空間)。日常的な溜まり場的な空間にしつつ、積極的に定期交流イベントを仕掛ける。大船に全面移転するのではなく、旧鎌倉、深沢、大船の３拠点連携とすべき。
- 市長、議会、行政、市民の信頼関係構築、政策実施の可視化促進、意見交換の場作り。
- 休日に市議会を拝聴できる。
- 市民の希望と行政の施策（希望）に奉仕意思があるボランティアを活用していく。
- ボランティアなど。

【行政の姿勢・心構えに関して】

- 市の職員に市民の声が届かないのは、職員が鎌倉市に居住してないから全然言葉が伝わらない、職員が我がこととして取り組んでいないのでは？と、思うことが何回もあります。
- まず、市の職員の鎌倉市民の比率を上げてほしい。横浜市や藤沢市に住む人に、鎌倉市の問題解決を任せたくない。
- 市の職員全員が鎌倉市民でなくては、とまでは言いません。家族の通勤・通学の都合もあるでしょうから。鎌倉市職員の比率を段階的に上げてください。最終的には 70 パーセント以上にしてほしい。
- 市政の従事者は全て鎌倉市民であるか、あるいは相応の「当事者意識」を持つための教育とチェックが必要。
- 鎌倉のことを本気で思うことができるのは、鎌倉市民です。市民が、もっと市職員に増えないといけないと思う。
- 共創を行う前に自治会に説明して頂き、それからどうするかを決めれば良いと思う。一方的に命令が来た場合は、コンセプトも目的も分からず、何をしてよいやら分からない。協力も出来にくい（最近の最悪の例：避難行動要支援者名簿をいきなり取りに来なさい。しかも印鑑を持って！！）。
- 市政アンケート回答に対するフィードバック。
- 交通政策推進に関する協議会や、モビリティマネジメントの推進に関する協働部会。鎌倉市における懸案事項である道路渋滞に関する諸課題を解決するにあたっては、市民サイドと行政サイドが共に知恵を出し合い、積極果敢に課題解決に取り組むことが必要。
- 仕組みよりも、やる気の問題だと思います。
- 市政の課題の解決策について、いくつかの方法を(先進前例)など紹介していただき、市民の議論の紹介していただいた上で、アンケートを実施していただきたい。
- 市民との共同提案に市政が実行する意思を持つ姿勢。なんでも受けるのことを要求するものではないが、汗を流す姿勢が必要。
- 共創の必要性を市政の説明会などやモニタリングの拡大で啓蒙することが必要なのではないでしょうか。
- 現在、市が目指している方向は市民の暮らしを優先しているのか、観光振興を目指しているのかわからないが、集客に目がいっていると思います。市民がどう思っているか、アンケート（納税の通知書に同封する、来庁者に用紙を配布する、ネットで募る）などできるだけ多くの生の声を聴いてほしいと思います。
- アンケート結果の集計はフィードバックして頂いているが、それに対する市の考え方などはなかなか判らない。偶には「それはもうやっているよ」、「これから検討してみようと思う」などなど次のステップが見える様にして頂けると更に意見を出してみたくなるが。スタッフが足りなければそういう協力ができる人も居るのでは？
- まずは市民と議会、そして職員の皆さんの一体感を熟成していく事が必要です。市長を含め、全く市民との一体感を感じない。市役所や支所を含め、もっと開放的で明るい空間を作る事が必要。全体的に会話を生む空気感がなさすぎる。
- 鎌倉市が、「市民との“共創”を通じた市政運営」をしたいという事を市民は知らないと思う。本気と思えるようなメッセージやアクションが示されていないから。アイデアを聞くレベルになっていないのでは？市長とか市幹部が本気度を市民に示すのが最初と思う。
- 協働事業を増やしていく。その際行政が担う部分と市民が担う場所を明らかにし、市と市民が相互理解の上で実践していく。

【その他のご意見】

- 難しい問題ですね。声の大きな人の意見が一番目立ちますけど。
- もっとオープンに、しかも広く透明に募集をしていただければ参加機会もあると思います。町内会も施設の開放も組織も何もかも枠だらけで「誰が・いつ・何を」決めたかすら知りえません。
- 仕組みはあっても、拾い上げ活用している成果がよくわからなかった。
- 市民の一部の意識改革がないと改革はできない。
- 市民が自分達は何々をやりたいので、市はこのようなことをバックアップして欲しいと提案していくべきと思う。市は何もやってくれないと言う人がいるが、自分達はこれをやりたいと決めてから相談に行けば共創がうまくいくのではないかと思う。
- 難しい事です。何をするにも行政は予算とスタッフが必要。市民の多くは思いつきで提案をするが、具体的に詰めるほどのものは少ない。“市民”はどんな方々を想定しているのか、が重要と思います。
- 市議会自体が閉鎖的。市議が市民の声を公平に聞いているとは思えない。
- 選挙の時だけ街頭で挨拶するのではなく、市議会議員や市長はもっと街頭に立ったり、市民に情報を発信すべきでは。鎌倉市民全員に独自のアドレスを配布し、メールマガジンを配布するなど、ネット環境を駆使して情報発信、対話ができると思う。本当に共創する気があるのならば、市議会自ら知恵をもっと絞るべきだ。選挙前の名前の連呼だけはうるさいだけで、かつ市政も何も伝わらないので、もうやめてほしいと切に願う。
- 市議会議員がより市内を廻り、多くの市民の意見を吸い上げる必要がある。もっと街に出てもっと現状を確認して下さい。
- 市民と市議の定期親睦会。
- まずは近隣での活動から参加していく。
- わざわざ「共創」という用語を用いることに疑問がある。「協働」すらできないのに「共創」は無理でしょう。
- 消費行為。持続可能な未来のために、市民の日々のお買い物の選択肢が、未来のためになるように、補助金や広告を使い、公的にビジョンを浸透させる。
- 北鎌倉駅のトンネル工事の進捗状況があまりにも遅すぎる。市当局の当事者意識が不足、危機感も見られない。住民がいかに困窮しているかもっと積極的・意欲的に動くべきだ。

【不明】

- わかりません。
- なし。
- 特に思い浮かばない。
- 特にアイデアはありません。

【政策創造課より】

「市民との共創を通じた市政運営について」たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。
鎌倉市はこれまで「市民自治」を掲げ、市民参画・共同・地域福祉の推進に取り組んできました。今後ますます多様化・複雑化する社会課題に対し、行政だけで解決することが難しくなり、共創によるまちづくり、市政運営が重要となってきます。今回の調査では、市政やまちづくりに対して、市政e-モニターのみなさまの意識が高いことが改めて確認できました。
市民の意見やニーズを市政に生かし、また、市民の皆さんが参加しやすいまちにしていきたいと思います。

鎌倉市 経営企画部 秘書広報課 広報広聴担当
〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号
TEL 0467（23）3000 内線 2506
FAX 0467（23）6505
e-mail：emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp